



学校便り「尚徳」 2月号

第475号

鳥取大学附属小学校

平成24年2月21日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



12回目の実りの学校

副教頭 鈴木 英之

2月14日、大雪のため延び延びになっていました「実りの学校」が無事終了しました。インフルエンザで学年閉鎖となっていた6年生も最後の「実りの学校」に間に合いました。2度の期日変更にも係わらず、多くの保護者の方々に参観いただきまして、ありがとうございました。期日が延びたため、練習がたっぷりできて、どの学年も子どもたちが自信をもった発表ができていました。

この「実りの学校」誕生はまず、平成11年小中一貫の教育課程研究開発の文部省（今の文科省）指定を受けて、小1～3年生は生活総合（新設教科）、小4～中3年生は総合的な学習の時間を人権や平和・命・福祉などの「にんげん」領域と問題発見・解決型の「探求」領域で学んだ成果を秋の研究発表会で中間発表として公開しました。

せっかく中間発表をしたのだから、本発表もしようということになり、2月はじめにランチルームに全校が集まり、1学年2チームずつぐらいで発表したのが始まりです。「実り博士」というキャラクターに扮した児童が司会や発表にちなんだクイズを出しながら進行了しました。

どの学年もしっかり発表できて、平成12年度に

はこの生活や総合などで学んだ成果を保護者にも公開しようとなりました。学習の成果は「実り」だから「実りの学校」にしようとなったのです。「冬なのに実りか？」という意見もあったのですが、旅、砂、森、雪の学校シリーズに学年全体で保護者に発表できる「実りの学校」を加えようということで定着しました。学年で実施日を決めて1週間かけて発表していました。（実りウィークと呼んでいました。）保護者にも一人一人の発表が時間をかけて参観できて好評でした。その後2日に集約されましたが、今年度は、総合的な学習の時間縮減と教科の内容と時間数増加を受けて、1日開催となりました。

1日開催でありましたが、どの学年も1時間に集中し、創意工夫された発表内容で、保護者の方々に好評でした。附属小学校の特色である学校シリーズの中でも「実りの学校」が全学年公開ということで、保護者の皆さんには関心が高いと思われます。

「実りの学校」が始まってちょうど12年です。保護者の皆さんにも定着し、楽しみにされている行事ですから、発表内容はそのときの教科や領域の内容により変化させつつ、形は変わっても子どもたちが意欲的に自信をもって発表する場を引き継いでいきたいものです。



【給食週間】



2月6日～14日に校内給食週間を実施しました。きょうだい学級との交流給食は、臨時休校で残念ながら中止となりましたが、級外の先生との交流給食やセレクト給食などを実施しました。

1年生は、日ごろお世話になっている調理員さんにお話を聞いたり、質問したりしました。

5人で1200人分の給食を毎日作っておられることを聞き、驚きとともに感謝の気持ちをもつことができました。また、2年生は栄養教諭の下坂先生と調理員さんへお礼の手紙を書き、3年生以上は給食標語を作って、給食への感謝の気持ちをそれぞれが伝えました。

【防犯避難訓練】

2月15日、鳥取警察署の松島巡査部長さんにおいでいただき、不審者が校内に侵入したという設定で防犯避難訓練を行いました。子どもたちは放送をよく聞き、担任の指示に従って静かにきまりよく避難することができました。避難後、松島さんから、普段から前を向いて大きな声であいさつすることは、不

審者から狙われない方法の1つであることをうかがいました。

避難訓練は、子どもたちだけでなく緊急時に職員が子どもを守るためにどう行動するのが有効なのかを確認し、訓練する大切な時間でもあります。今後も、どんな場合にも対応できるよう訓練を積み重ねていきたいと思っています。



大声を出す練習

